

令和 8 年度 富山県 英語教育改善プラン

目標

外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする児童を育てる。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①言語活動について、授業の中での活動時間の増加や内容の工夫が見られる。
- ②小・中・高等学校の教員間の連携が進んでいる。

未だ改善が必要な点

- ①授業や家庭学習において、学習者用デジタル教科書の活用が進んでいない。

2. 要因分析

- ①研修や研究会等で、話したり書いたりする必然性のある場面や、児童がコミュニケーションを図る楽しさを体験できる言語活動の具体例が多く示され、教員の理解が深まったことで、各校での言語活動の工夫が進んだと考えられる。
- ②毎年、夏季休業中に実施している研修で、小・中・高の教員が協議や情報交換する場を設定することで、研修後の連携につながったと考えられる。
- ①学習者用デジタル教科書について、学校や教員間で活用状況に差が見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②校種間のつながりを意識した指導の一層の推進
「小学校外国語指導力等向上研修会」と「英語教員研修会（中・高）」をR3年度から同日に開催し、小・中・高の教員が共通のワークショップや講義に参加している。昨年度に引き続き、今年度も「話すこと（やり取り）」の領域の言語活動について協議し、それぞれの目標や学習活動について理解を深める機会とする。また、同一地区の異校種教員が情報交換することで、研修会後の地区や校区での更なる連携につなげる。
- ①学習者用デジタル教科書の活用促進
 - ・授業や家庭学習における学習者用デジタル教科書の具体的な活用事例を研修や研究会等で広め、各学校での更なる活用につなげる。
 - ・デジタル教科書活用研修等を開催することで、学習者用デジタル教科書、1人1台端末を授業で効果的に活用し、児童の個別最適な学びと協働的な学びを一体的に育成し、授業改善を推進する。
- ①①とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）の推進
子供の問題（課題）意識を高め、自己調整しながら学習を進めるための授業改善を推進する。
（『幼・小・中学校教育指導の重点』富山県教育委員会）
- ★教員採用選考検査小学校受検者においては、英語免許保持者及び一定の英語力を有する者への加点制度を設ける。



令和 8 年度 富山県 英語教育改善プラン

目標

外国語による言語活動を通して、簡単な情報や考え等を理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図ろうとする生徒を育てる。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合（R7：51.9%⇒R8目標：55%）

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①小・中・高等学校の教員間の連携が進んでいる。

未だ改善が必要な点

①求められる英語力を有する生徒の割合がやや減少した。
【CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合】
(R6)53.5%⇒(R7)51.9%

②授業や家庭学習において、学習者用デジタル教科書の活用が進んでいない。

2. 要因分析

①毎年、夏季休業中に実施している研修で、小・中・高の教員が協議や情報交換する場を設定することで、研修後の連携につながったと考えられる。

①コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を中心に位置付けた授業が増加している。しかし、教師が必要以上に日本語で指示をするなど、教師の使用する英語が生徒にとって効果的なインプットとなることの意識や、授業を実際のコミュニケーションの場面とすることの意義について、教師の理解が未だ不十分であると考えられる。

②学習者用デジタル教科書について、学校や教員間で活用状況に差が見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①校種間のつながりを意識した指導の一層の推進

「小学校外国語指導力等向上研修会」と「英語教員研修会（中・高）」をR3年度から同日に開催し、小・中・高の教員が共通のワークショップや講義に参加している。昨年度に引き続き、今年度も「話すこと（やり取り）」の領域の言語活動について協議し、それぞれの目標や学習活動について理解を深める機会とする。また、同一地区の異校種教員が情報交換することで、研修会後の地区や校区での更なる連携につなげる。

①生徒や教員の英語使用状況がより向上するよう、学校訪問研修会等において、言語活動を効果的に取り入れた授業づくりについて指導・助言を行う。

②学習者用デジタル教科書の活用促進

・授業や家庭学習における学習者用デジタル教科書の具体的な活用事例を研修や研究会等で広め、各学校での更なる活用につなげる。
・デジタル教科書活用研修等を開催することで、学習者用デジタル教科書、1人1台端末を授業で効果的に活用し、生徒の個別最適な学びと協働的な学びを一体的に育成し、授業改善を推進する。

①②とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）の推進

子供の問題（課題）意識を高め、自己調整しながら学習を進めるための授業改善を推進する。

（『幼・小・中学校教育指導の重点』富山県教育委員会）



令和 8 年度 富山県 英語教育改善プラン

「指導と評価の一体化」を進めるための教師の指導力の向上と評価の改善

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 60.1%、B1以上 27.6% ⇒ R8 : A2以上 64%、B1以上 28%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①小中高の連携
参考 :
(R4)87.9%⇒(R5)81.8%
※英語教育実施状況調査
②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合【CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合】
(R6)59.0%⇒(R7)60.1%
①は下がっているが、①②ともに高い割合を維持している。

①教師が必要以上に日本語で説明する場面が見られる。
【教師の発話の50%以上を英語で行っている学校の割合】
(R6)40.4%⇒(R7)36.3%

②観点別学習状況の評価を含む評価の改善

2. 要因分析

①小中高合同研修の実施
・同一のワークショップ・講義
・近隣地域の他校種の教員との情報交換
②研究拠点校における研究実践と成果の普及
・研修会における実践報告
・報告書の全教員への配布

①教師の授業中の英語使用の増加が、授業を実際のコミュニケーションの場面とすることだけではなく、生徒同士の英語使用の増加にもつながることへの教師の理解が不十分である。

②英語科全体で評価方法の検討、振り返りが十分になされていない場合がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②以下の取組の継続
英語・グローバル教育充実事業
高度な英語力をもち、世界で活躍するグローバル人材を育成するため、各校で設定した学習到達目標の活用を促進し、全県で英語指導の一層の充実を図る。
・小中高合同研修の実施
・研究拠点校における研究実践と成果の普及
・英語プレゼンテーションコンテスト及びディベート大会の実施
・ICT機器のさらなる活用の促進
(第4期富山県教育振興基本計画 :
https://www.pref.toyama.jp/documents/53510/3rd_kyoikutaikou_1.pdf)

①②以下の取組の継続
英語教員研修会
・指導と評価の一体化に関するワークショップの実施
学校訪問
・現場の状況把握と助言

[留意点]
・CAN-DOリストを活用した評価計画の重要性の共有
・各学校の実情に合わせた評価方法を助言
・多様な評価方法の具体的方策の提案
・授業改善に向けた評価方法の理解の促進

富山県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	61.4	62	59	63	60.1	64		65	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	20.1	25	23.5	25	27.6	28		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		70	60.3	70	55.2	70		70		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		60	50	60	49.8	60		60		60	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	70	59.2	60		65		65		70	
		達成状況の把握（％）	75	59.2	75		75		75		75	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85	86.9	85	88.2	90	95.8	90		90	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		65	45.3	60	40.4	65	36.3	65		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	48.9	50	53.5	55	51.9	55		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	71.9	90		90		90		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	91.2	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	47.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	81.6	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		55	54.6	55	58.7	60	78.1	60		65	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		90	57.9	90		90		90		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	88.1	100		100		100		100	
		公表（％）	80	42.9	80		80		80		80	
		達成状況の把握（％）	70	71.2	80		80		85		85	